

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1272401041
法人名	社会福祉法人清流会
事業所名	グループホーム清流
所在地	千葉県市原市勝間下五反目337番地の2 (電話) 0436-75-6666

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年9月12日	評価確定日	11月5日

【情報提供票より】(19年8月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤10人, 非常勤3人, 常勤換算	4.5人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	食・水光熱55,000 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:5年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,800円			

### (4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長谷川病院(内科・外科) 磯ヶ谷病院(精神科)
---------	-------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな緑に囲まれた、心地よい環境に位置しているホームである。同じ敷地内には、特別養護老人ホーム清流園やデイサービス、居宅介護支援事業所などが併設されている。本体である特養の施設長がグループホームのホーム長を兼務していることもあり、医療に関しては特養の看護師の応援を得ることができる。それ以外の面でも、本体特養との連携体制が充実している。介護度が上がり、グループホームでの生活が困難になった場合は、特別養護老人ホームへの移動も可能であり、安心感のあるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度評価では、特別養護老人ホームやデイサービスの存在が大きく、グループホーム独自の広報・啓発が少ない点が指摘されたため、改善を行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者と職員との協力のもとに実施された。これ以外にも、年2回、職員がそれぞれ自己評価を行うほか、ホーム全体のサービスの質についても話し合いをしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	昨年11月から奇数月に開かれている運営推進会議では、ホームからの状況報告や民生委員からの地域の情報が広く提供され、大変成果のある情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には「何でも言って下さい」と文書や言葉で働きかけ、意見があったときは苦情解決委員会を開いて即時対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のボランティアに来てもらったり、ホームから敬老会、市民会館での催しなどに参加して、地元の人々と交流している。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るくおだやかな生活」という、わかりやすいホーム独自の理念をつくりあげ、日々のケアに反映されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のカンファレンスにおいて管理者、職員全員で話し合い、理念が実現できるよう取り組んでいる。入居者が書いた理念が、ホーム内の見やすい所に掲示されている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の特別養護老人ホーム清流園と合同で、敬老会、市民会館での催しに参加したり、各種ボランティアの訪問を受け、地域との交流をしている。高校、幼稚園の生徒とのふれあいも行っている。		
to					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が一人ですのではなく、職員も参加し、共同で行っている。昨年指摘されたパンフレットの作成、入り口の表札などは改善されていた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年11月より奇数月に開かれている。ホームの取り組み状況を報告するだけでなく、民生委員から地域の情報を提供してもらったり、ホームの草とりを自主的に申し出てもらったりしている。また、地域の運動会への招待も受けた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が兼務する、本体の特別養護老人ホームの方で、市町村から入居者の紹介を受けたり、市の介護教室を年1～2回は受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族への会計報告にあわせ、入居者の身体状況、体調、日ごろの暮らしぶりなどを知らせている。また「グループホーム清流新聞」で食事会や茶会などの案内をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	三ヶ月に1回、苦情解決委員会を開き、家族からの意見・苦情を報告するとともに、今後の対応・防止策を講じている。家族会でも話し合いをしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入退職は「グループホーム清流新聞」で紹介している。新人職員が入った際は、一ヶ月程度ベテラン職員が付いて指導し、入居者に影響を及ぼさないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、新任・現任ともに、食後の歯磨きや車椅子への移乗の仕方、感染症対策など、法人内外の研修を受講している。現場で新/旧職員がペアになり、介護技術をトレーニングしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他所のグループホームを見学したり、または他グループホームからの見学を受け入れて相互訪問を活発化させ、情報交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人のデイサービス利用者がグループホームに入居してくるため、顔見知りの場合が多い。家族や入居者本人の希望に応じて、見学や日帰り体験にも応じ、少しずつホームの雰囲気に慣れてもらうように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者から料理の作り方や灰汁の取り方を教わったり、貼り絵、押し花、七夕飾りをともに楽しんだりしている。職員と入居者とが支えあう関係を大切にしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>買い物等、入居者個々の意向はケアプランに落とし実行している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者が責任を持つ体制であり、入居者個々の情報が細かく捉えられている。カンファレンスを開き職員間の情報の共有が図られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>身体状況の記録は日々丁寧に記録され、把握しやすくなっている。協力病院である長谷川病院の医師、看護師との連携もスムーズに行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や入居者の要望には職員が出来る限り対応する。デイサービスのボランティアがレクリエーションに訪れたり、法人全体の資源をホームにも活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の長谷川病院とはしっかりとした協力体制が作られている。入居者個別のかかりつけ医への受診にも対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	隣接の特別養護老人ホームと連携して終末期ケアに当たっている。入居者一人一人の状態に応じ、家族を交えて方向性を決定している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は事務室で保管するなど、個人情報保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、レクリエーション他、生活全般において、入居者の希望・要望を優先して支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園を活用し、きゅうり、トマトを作り、食卓に出している。月に一回リクエストメニューを入れるなどの工夫もされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせて毎日入浴などの対応が図られている。月1回は特別養護老人ホームの大浴場も利用し気分転換に役立っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、生け花等、得意な入居者が先生となり、活動している。レクリエーションは月単位の計画を作成し、実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の自然を活用した散歩や、定期的な買い物外出等が行われている。市民会館への催し物にも参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけず、入居者が出入りしたらチャイムが鳴ってわかるようにしてある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に、消防訓練2回、地震を想定した訓練2回が実施されている。隣接の特別養護老人ホームが避難場所に指定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量、水分量が日々記録されている。きざみ食等の工夫もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の空間が広く、ゆったりと安心して行動できる。壁に飾られた様々な写真が温かみをかもし出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の好みの品々が置かれている。家族の意見も取入れ、個々に自分らしい部屋作りを行っている。		